

e-ビーフNEWS 北の牧場から

June 2017

十勝の運動会

今まさに、土日は運動会シーズン。内地は秋が定番ながら、収穫期の繁忙期を避けるために春になったとの言い伝えです。毎日のように近くの学校から、行進曲と「…です。何々さんが一番です。△▼さんががんばってください」という小学生の司会の声が聞こえてきます。心配は天気。朝6時の花火の「ど～ん」がなければ中止です。なぜか神様は、土日雨模様。さてさて

5月に入り、気温も上昇。朝こそ10℃以下になりますが日中は20℃超え、時には30℃達成。寒暖の差が大きく体調不安定ながら、農作業は順調に進んでいます。ムギ、イモ、牧草の作柄は、例年より2日から3日早い生育です。今年は期待できるかな…でも明日から曇から雨。最高気温13℃。えっえー



活動のお知らせ

6月 3日(土) … ホテルグランテラス帯広 10:00~13:30 第18回定期総会&肉牛飼養技術研修会

「道産牛のおいしさについて」大井幹記氏 e-ビーフ試食・意見交換会

6月30日(水)~7月3日(金) … 北十勝ファーム(足寄町) 有福氏・木村氏の講演会&懇親会

11月9日(金) … とかちプラザ 視聴覚室 資源循環型肉牛生産シンポジウム 2017

NEWSばか読み

- 国交省 堤防の菜の花一掃 ミミズを食べるモグラやキツネ対策で 5/1:何か変?
- 自民党提案 定年世代を農業に参入促進 5/1:望むところ…飯食えるようにね
- 中国アニメ市場 2兆円規模に加熱 5/2:お株取られそう→取られた
- カルビー 健康志向の中国への輸出増でグラノーラ増産 5/2:中国朝飯に変化
- 豚オーエスキー病の清浄化へ最終段階 発生から36年 5/2:防疫関連感謝
- 伊藤ハム 茨城に市場拡大で簡易に食べれる中食用総菜工場新設 5/3:食の変化
- コロワイド 中国本土に牛角チェーン出店開始5/3:焼肉市場をつかむ
- パルシステム 16年度飼料米使用8,000t超 コメ豚順調 5/3:定着期待
- 日本公庫調査 インバウンド需要に外食業者5割商機 5/5:期待感膨らむ
- 食品メーカー 抹茶使用食品がヒットし市場投入拡大 5/5:健康志向か
- 農林水産省 耐性菌で飼料添加剤コロシチンの指定取り消し 5/6:耐性菌が課題に
- 雪印メグミルク ドリンクタイプのヨーグルト生産能力倍増 5/9:カゼリ菌活発
- 動物検疫所 今年の乳牛輸入希望1,500頭 5/9:焼け石に水とは言わないが
- ジェトロ 中国への企業投資が撤退から一転、再活発 5/11:中国国内需要に期待
- 米穀機構 コメ1人当たり消費が増加 節約志向で炊飯増加 5/11:飯食う機会増
- 農林水産省 タキイ種苗の未承認GM花き回収命令 5/11:知らない間にGM浸透
- 道総研畜産試験場 牛白血病の清浄化に調査検討開始 5/11:深刻度増さないうちに
- 静岡畜技研 臓器移植用の無菌DPF豚生産技術確立へ 5/12:豚モツ食えなくなる
- 農林水産省 鶏インフル発生要因からウィルス密度上昇可能性 5/12:咳が出る

- 農林水産省 ポテチ原料調達解消の見通し 5/12:ポテチ食いてえ
- 北日本くみあい飼料 和牛肥育委託頭数を増頭 5/12:リスク分散
- 中国 貿易バランスで米国産牛肉解禁 5/13:和牛も…日米の国力の違いか
- JA全農ET研 繁殖プロ育成の「繁殖義塾」開講 5/16:今からでも遅くない
- 沖縄県 肥育農家に子牛導入資金3万円補助で産地づくり 5/16:沖縄和牛も評価
- イオン 売り場を買った物をその場で食べる飲食スペース拡大 5/16:業態様々
- 国産鶏ムネ肉卸値4割高 5/16:安ければ人気消費者志向
- 農畜産機構16年度和牛出荷頭数過去最少7.1%減44万頭、雌牛9.3%減20万頭自己保留増える 5/18:良い傾向だ
- 乳牛3社17年3月期最高益 円高原料下がり利益上乗せ 5/18:生産投資に回せ
- 農林水産省 GAP拡大へ食品業者のパートナー会今秋開設 5/19:旗振っているな
- 国交省 港湾整備し飼料満載船入港可能に 5/20:コストに反映できればいいが
- スーパー各社16年度出店1割減少、惣菜エリア改装3割増 5/23:スーパーの役割
- 米国家計借金が金融危機時の最高を更新 5/25:二の舞にならなければ良いが
- 農業情報設計社(帯広)農作業履歴のアプリ開発 5/26:農業ITは進化
- 福岡県JAのみなみ筑後スマホ農業疑似体験ゲームで収穫できれば本物提供 5/26:牛も
- 農林水産省 ヨーグルト需要で輸入脱脂粉乳2.6倍拡大 5/26:じわりじわり
- 豚肉市場 スペイン豚肉イベリコ人気で輸入拡大 5/26:EU農畜産物もリスク
- Jミルク17年乳生産量1.6%減724万t予想 5/26:底なく止まらず減少
- 横浜の機械メーカー熊本、沖縄で酪農家の糞尿使いバイオマス発電 5/29:異業種協業
- 北大 牛白血病治療にガン免疫薬応用5/29:有効性に期待
- 食育白書 農業体験で意識向上し地産給食増える 5/31:食育一步
- 観光白書 訪日客の旅行スタイルが体験型に移行 5/31:真の理解に期待
- 4月貿易統計 牛肉米国産が急増 輸入シェア41%に 5/31:リスク増

東京直近NEWS (5/30 Shi-REPORT)

ホルス 5月相場は前月同様上げ基調で推移。飼養頭数の減少から各産地メーカー系統ともに集畜に注力しており、集荷競争がさらに強まっている。建値価格に対しても、プレミアム価格や条件の緩和など生産者に対して好条件提示。販売は、連休の消費疲れもあり部分肉相場は下げ傾向で、パーツの在庫も余裕出てきている。集畜競争から早出し傾向と好条件になっており生産品質の低下が懸念。梅雨入り前で季節から販売低迷時期控えておりさらなる販売鈍化可能性強いが、枝肉評価との乖離が広がりそう。

経産牛 市場相場は上げ基調継続。放牧時期に突入し、頭数のさらなる減少期に突入。販売面は逼迫感ないものの、集荷頭数の減少からロイン、赤身を筆頭に冷凍在庫含めて産地も在庫手薄。大きく騒がれていないが、想像以上に玉は少ない模様。挽き材関係は相変わらず国産は輸入に押されており動き鈍いが、輸入物が高騰し始めており今後の動向に注視必要。これから秋口まで頭数の減少期に入り、さらなる玉不足も予測される。

左先生の畜産学研究NEWS

主要国首脳会議は今年もG7で開催され、欧州の自由経済が米国のトランプ新政権に振り回された感があります。パリ協定は米国抜きで再確認など日本の政治はこれに強い影響力を発揮することはなく全ては主要20カ国・地域首脳会議(G20)に先送りとなりました。主要とは何か、世界はこれでよいのかと疑問を抱く人は多いことでしょう。e-びーふNews42号の学術情報は以下の通りです。積み残しは次号です。

1. 「畜産技術」2017.5: (技術情報P1) 乳用種牛肉を輸入牛肉と「おいしさ」で差別化できるか(佐々木啓介:農・食産技総研機構)

輸入牛肉と乳用種去勢牛肉は共に赤身型で競合が懸念されます。道内産乳用種去勢牛や米国産牛など6種の牛肉の理化学特性と官能評価を比較すると、乳用種去勢牛の脂肪含量や口中香などは輸入牛肉と和牛肉の中間と思われ、消費者嗜好では乳用種去勢牛が輸入牛肉との違いを認識しています。

2. 2017.3.26 栄養生理研究報Vol.61.#1h29 春季集談会「β-カロテンを活用した黒毛和種子牛の疾病予防と腸管免疫改善」(久米新一:京大院農)

牧草飼料中のβ-カロテンの黒毛和種子牛の下痢等の疾病予防、腸管免疫の改善などに及ぼす効果を検討しました。飼料由来のβ-カロテン不足の黒毛和種繁殖牛に乾ニンジンでβカロテンを給与すると血漿IgG1やIgAはレベルは低いものの改善効果がみられ、子牛の疾病予防に良質粗飼料が重要です。

3. 2017.3.26 栄養生理研究報Vol.61.#1 h29春季集談会「ウシ組織におけるα-トコフェロール体内動態関連遺伝子の発現特性に関する研究」(芳賀 聡他、農研機構)

抗酸化物質VtEの同族体の一つであるα-Tocのみが動物体内で蓄積しますが、脆弱な黒毛和種子牛の健全発育を左右するα-Tocの体内動態遺伝子発現を解析し、肝臓、精巣、副腎などにそのmRNA発現が高いことが明らかになりました。

4. 2017.3.28-30 日畜第122回大会 (神戸大鶴甲第一キャンパス)

1) 奨励賞「筋幹細胞分泌因子semaphorin3Aによる筋繊維型自律制御機構に関する研究」(鈴木貴弘: 北大院農)

食肉の品質に関わる筋繊維型の制御は「運動神経刺激制御説」と新規制御機構である多機能性細胞制御因子(Semaphorin3A:分泌型タンパク)による「筋繊維型自律制御機構」とする仮説の研究紹介です。Sema3Aは遅筋の衛星細胞に多く、遅筋型筋繊維の形成促進に有効な「次世代型食肉生産システム」への展開が期待されます。

2) 優秀発表賞応募課題「画像解析形質を利用した黒毛和種における種雄牛総合評価(和牛総合指数)の検討」(岩崎良介ほか、帯畜大)

黒毛和種牛の和牛総合指数を枝肉単価との関連形質の育種価に経済的重み付けをして有効性を検討しました。約23,000頭の子牛の格付け形質と画像解析形質から枝肉単価の回帰式を推定すると、推定枝肉金額と取引枝肉金額の間には高い相関がみられました。

3) I-28-05 親子放牧における黒毛和種子牛への木材クラフトパルプ給与の効果(木戸恭子他、農研機構)

黒毛和種の放牧子牛の補助飼料として木材クラフトパルプを給与しました。2~7ヶ月齢まで給与TDNの10%を代替えし、市販配合飼料を給与した対照区よりDGが上昇し、給与開始5ヶ月時点で体重115%、DGは120%となりました。パスポ給与により第一胃内pHの安定月齢が早くなりました。

道総研 畜産試験場NEWS

「黒毛和種育成牛への2番草GS主体TMR給与技術」② 全3回シリーズ

道総研 畜産試験場 肉牛グループ 遠藤哲代

